

# 週刊 座、グレート・リーダーズ通信

## 『インド私録-思い切り取り組んだこの50年-』 No.3

ご意見・ご感想 [rnm@radio-new-mumbai.com](mailto:rnm@radio-new-mumbai.com)

### 今週のキーワード！ カースト

#### 問題は差別

インドといえば、誰もが「カースト制度」をまず頭に思い浮かべるかもしれません。カースト制度とは実際のところ何なのでしょう。武藤氏曰く、「カースト制度は、ヒンドゥー教徒がそれぞれにもつカースト(氏姓)の下で、ヒンドゥー教徒としてのアイデンティティーを保障する氏姓制度とでも呼ぶべきものであり、いわゆる階級制度ではない。ヒンドゥー教徒としての社会的位置づけを明確にする制度だけに、カースト制度そのものがなくなることは有り得ない」。それが半世紀以上にわたりインドと付き合いってきた中で、武藤氏が実感として分かったことだといいます。

何年か前、某テレビ局が放映したインド特集番組の中で、レポーターが、「カースト制度がなくなる限り、インドの発展はない」と明言していたのには驚いたといいます。8億人を超えるヒンドゥー教徒がいるインドで、カースト制度を否定することは、ヒンドゥー社会そのものを否定することにつながる、その意味でカースト制度自体がなくなることはないだろうというのです。

ただ、近年のインドの経済発展

により、カースト制度がもつ差別の問題の深刻さが、ムンバイ、デリーといった大都会を中心に確実に弱まりつつあるようです。

ただし、カーストに属する人々によるカースト外の人々、いわゆる不可触民と呼ばれた人々への差別は『インド私録』で武藤氏の体験として書かれているように過酷なものです。これはなくさなければならぬと武藤氏。

武藤氏は「どの国にも、外国からあまり触れられたくない問題があり、インドを論ずる際に、インド人があまり触れたがらないカーストの問題だけをことさらに取り上げるのは如何なものか。変幻極まりない、複雑なインドだからこそ、すべての問題の解決にはなにかと時間がかかる。インドを重要と考えるなら、カースト制度の問題だけにとらわれず、インド全体をより幅の広い角度から見ただけの余裕を持ちたい。いつまでもカーストの問題にこだわる日本のメディアには、『カースト制度だけがインドの問題ではない』と叫びたい! 」と語っています。

#### 観光地今昔

##### 宮殿ホテルは今、インド人にも人気

「デリーをこよなく愛する」と語る武藤氏は、その理由の1つに、

デリー周辺にいくつも点在するイスラム建築の存在を挙げています。『インド私録』でも、ニザームウッディンの自宅近くにあったフマユーン廟がお気に入りだったと述べています。

武藤氏の回想によれば、フマユーン廟は当時訪れるのは外国人ばかりだったとのこと。それが今ではインド人の国内旅行者で賑わうようになり、観光にお金と余暇を充てるようになったことに感慨を覚えるといいます。

そういえば、今週のインドの新聞に、最近マハラジャの宮殿などを改装したヘリテージ(遺産)・ホテルに宿泊するインド人観光客が増えているという記事がありました。記事によれば、そうしたホテルの宿泊料は、インドの物価や庶民の所得水準からすれば、決して安い金額ではありません。しかし、インド・ヘリテージ・ホテル協会によると、以前は8割が外国人だった利用者が今は4割がインド人だとのこと。

武藤氏ならずともこの半世紀に感慨深いものを感じずにはいられません。



#### 次回放送 6月29日

ご意見・ご感想お待ちしております。